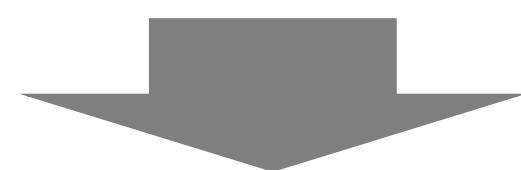


基本理念

訪れる度に新たな発見！学び、楽しみ、守る、那須平成の森

～地域の皆さんにもっと愛される那須平成の森へ、生まれ変わります～

- ・開園から10年間、旧御用邸用地という歴史を尊重するとともに、自然環境を適切に保全し、質の高いインタープリテーションを行うことによって、品格ある自然学習の場を築いてきた。
- ・一方、全国でも類を見ない規模の環境省が所管する国立公園専用エリアであることを踏まえると、利活用のポテンシャルが多く残されている。
- ・10年間の成果を活かしつつ、環境省が関係者と連携しながら、自由な発想で新たな取組に挑戦することで、より多くの国民に知り・活用してもらう。



マスタープランの基本的事項

① 策定の背景・目的

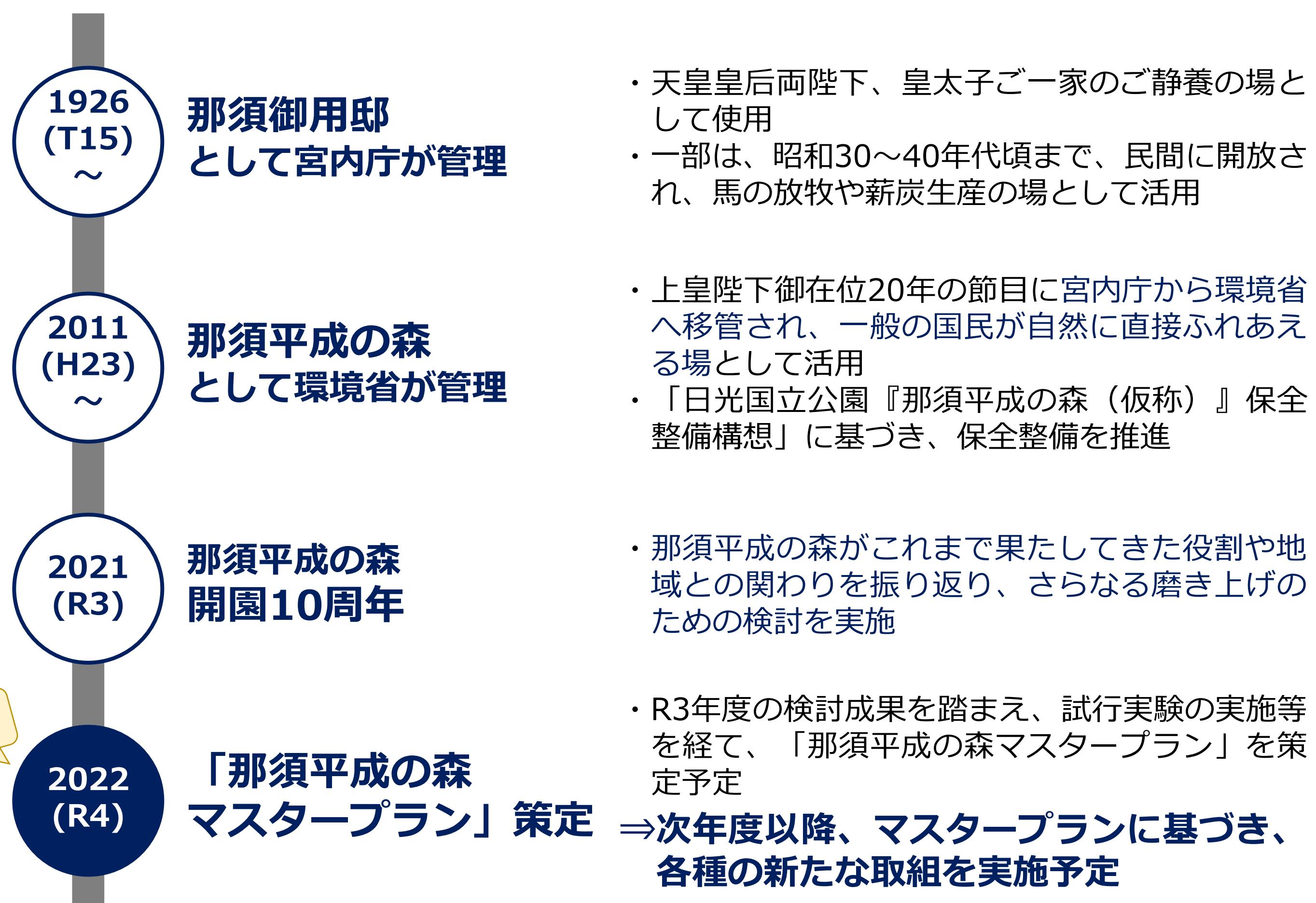
- ・日光国立公園「那須平成の森」が令和3年5月22日に開園10周年を迎えたことから、これからの那須平成の森が目指す方向性について取りまとめたもの

② 計画の位置付け

- ・環境省は業務受託者の協力も得ながら、那須平成の森マスタープランを踏まえて、施設整備・維持管理等を行うほか、地域関係者や研究者との連携により、施設間連携の強化、地元利用の促進、植生管理、モニタリング調査等を推進する

③ 計画の対象

- ・適用範囲は、「那須平成の森」に関連する全ての事業とする。
※地域関係者や研究者は、直接の対象者とはしないが、マスタープランに基づいて、環境省から地域関係者や研究者に協力を仰ぐことを想定
- ・計画期間は、概ね10年程度とする。



現状認識と基本方針

① 自然環境の現況と課題

●現況：大きな環境悪化は見られないが、より能動的な管理が期待される。

●課題：

継続 保全すべき自然環境の継続的保全（利用コントロール含む）

新規 二次林環境の維持（管理目標やゾーニング設定と能動的管理）

継続 外来種侵入防止対策の継続

充実 鳥獣害対策への備え

充実 モニタリング調査の目的の明確化

<地域のみなさんからいただいたご意見>

- 森の質は町内の自然と大差ないのではないか
- 御料地として守られてきた環境は特徴的であり、維持すべき
- 人の手を加え過ぎない管理を維持してほしい

② 利用者サービスの現況と課題

●現況：ガイドプログラムの確立は大きな成果だが、今後は他のプログラムの充実も求められる。

●課題：

充実 過大な環境負荷がかかる範囲での利用増

継続 リピーターの維持、利用者満足度の向上

新規 自然環境の特性に応じた、より幅広い自然体験の場・機会の提供
(新規利用者層へのアプローチ)

充実 飲食物販提供サービスの継続・拡充

<地域のみなさんからいただいたご意見>

- 皇室ゆかりの高尚な場、一方で若干敷居が高いイメージも
- インターープリテーションは高い専門性があり、学びが多い印象
- 提供プログラム、イベント、軽食提供等を拡充してほしい
- 管理運営者以外の民間ガイドの活動受入
- 登山、自然のリアルタイム情報の提供
- 子供・県民・町民割引、年パス制度の導入
- 駒止の滝駐車場にトイレが必要
- 団体利用に適した施設整備
- 自然を活かしたレク的施設等の実験的整備

[基本方針1]

森林を能動的に管理し、より多様な利用ができる森とする

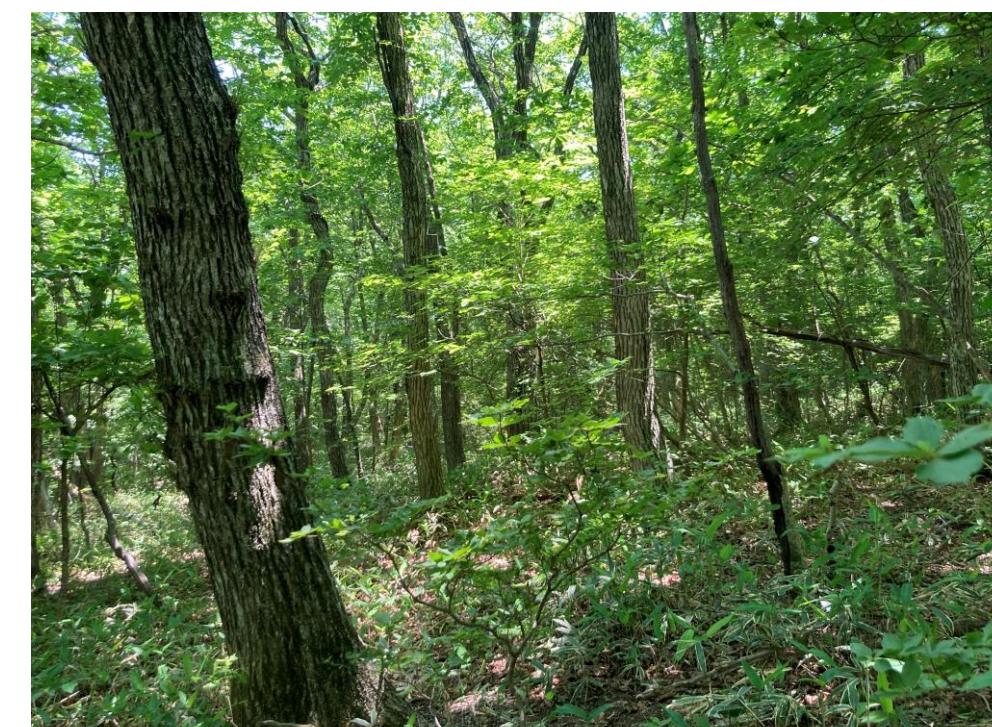
- 旧御用邸用地としての歴史を踏まえ、自然環境を保全するとともに、より能動的な管理を実践することで、かつて薪炭林として利用された二次林環境に関する学び、広場空間を活用した遊び等、多様な利用の土台となる森をつくる。

●新たな取組

永続的な森林維持と能動的管理の具体化に向けた「（仮称）樹林地管理計画」
⇒次年度以降に検討予定

●その他の主な取組：

- より効果的なモニタリング調査実施のための「モニタリング計画」の見直し
- 地域と連携した鳥獣害対策の検討
- 植生管理（草刈、外来種駆除等）、モニタリング調査等に対する利用者を含む多様な主体の参画の促進



[基本方針2]

学びの導入となる遊びのプログラムを充実させ、入門者からリピーターまで幅広く受け入れられる自然体験の場とする

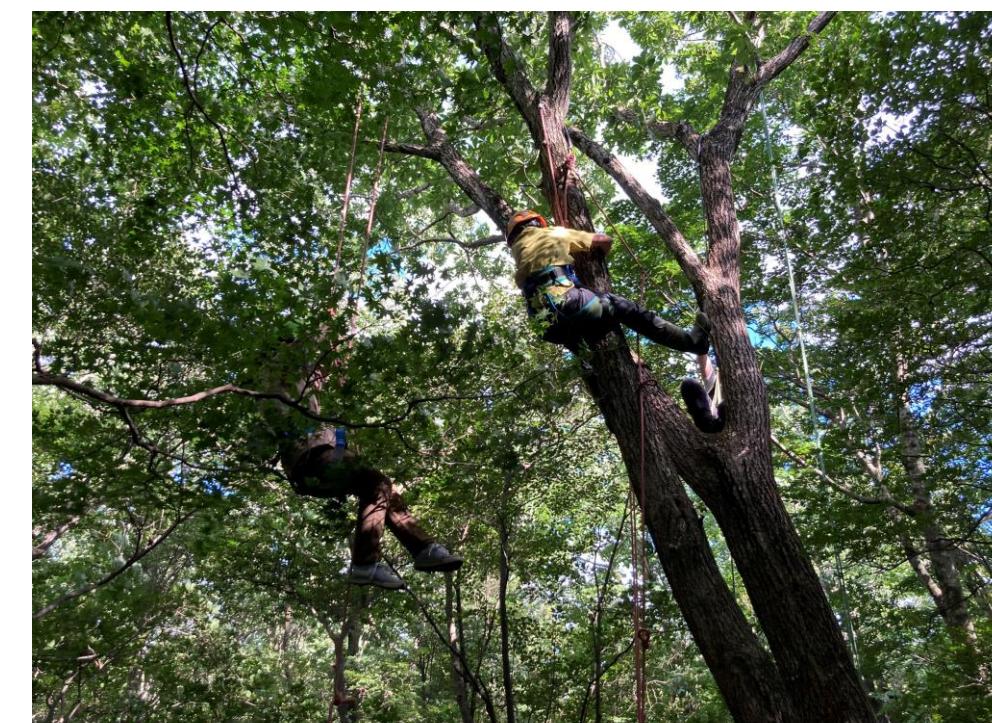
- 学び要素が高いプログラムを継続しつつ、エリアを限定して入門者が気軽に楽しめる利用者サービス（施設整備、各種プログラム提供等）を行うことで、自然体験の経験が少ない人にも楽しんでもらう。

●新たな取組

民間のノウハウも生かした自然を楽しむための利用の受入
⇒9/10、9/11イベントにて試行実験

●その他の主な取組：

- 新たな展望点の創出等、自然と触れ合うための施設の充実
- 参加体験型プログラムの充実（調査・森林管理体験等）
- 飲食物販等、利用者サービスの拡充
- リピーターやファミリー層がより利用しやすい仕組みづくり



現状認識と基本方針

③ 地域連携・広報の現況と課題

●現況：ある程度の地域連携・広報はなされているが、より効果的に実行することが求められる。

●課題：

充実 地域住民による利用機会の増大、愛着の醸成

充実 VC、FC各施設の機能の明確化

充実 周辺施設との連携の拡大・強化、周遊利用の促進

＜地域のみなさんからいただいたご意見＞

- ・（福島県側の方々にとっては）ほとんど知らない施設
- ・VCとFCの役割の明確化と周知をしてほしい
- ・VCとFCの連携を深めてほしい
- ・VC発着の散策ルートの設定があると良い
- ・周辺宿泊・観光施設等と連携したツアープログラム展開があると良い
- ・日光国立公園を軸とした連携強化
- ・学校教育での使用

④ 人材育成の現況と課題

●現況：施設スタッフの育成は高水準で行われているが、外部人材の育成はさらなる充実が求められる。

●課題：

継続 施設スタッフのスキル維持・向上

充実 指導者養成施設としての位置付けの再検討

＜地域のみなさんからいただいたご意見＞

- ・FCとVC職員の相互研修によるスキルアップができると良い

【基本方針3】

多様な関係者と連携することで、施設及び周辺地域の魅力を高める

- ・地域住民・関係者や自然に係る専門家等、様々な関係者との関わりを深めることで、各種プログラム等の魅力を高める。
- ・また、那須高原ビジャーセンター等の周辺施設と連携して情報発信を強化することにより、より多くの人に本施設を知り、利用してもらう。

⇒VCのあり方について、今年度検討中

●主な取組：

- ・各種プログラム実施にあたって、専門知識・技能を持った地域関係者との連携強化
- ・VC/FC、それぞれの役割の明確化と機能の充実
- ・地域内外の学校団体の受入/周辺施設との連携強化
- ・新たな利用者獲得のための施設の魅力の情報発信強化



【基本方針4】

施設内外に対して環境教育に関わる人材育成を行い、環境教育の質を支える

- ・本施設に携わる職員に対し、質の高い教育プログラムを施すとともに、他施設の人材に対しても人材育成の場、人材育成プログラムを提供することで、日光国立公園及び周辺地域の環境教育の質向上、国立公園の利用満足度向上に寄与することを目指す。

●主な取組：

- ・インタークリーの継続した育成
- ・他施設が実施する人材育成プログラムの受入促進



達成目標

【ターゲット】

- ・これまでのリピーターを大切にしつつ、**本施設を利用したことがない人を積極的に誘客**する。

※特に新たなリピーターの獲得を意図し、子ども（子連れの家族、学校団体等）や若者層を重点ターゲットとする。

【目標へのアプローチの考え方】

- ・**広報宣伝や地域自治体や事業者との連携の強化により、基本的な利用者数を維持、増大**する。

※既存プログラム参加者数（参加率）の増加と、“遊び”を意識したあらたなフィールドやプログラムの提供により、特に家族連れや若者の利用を増加させる。

那須平成の森ゾーニング図（案）

■ ゾーニングの基本的な考え方

- ・保全整備構想のゾーニングを基本としつつ、下部ゾーンを「学びの森」、「下部ゾーン」の2つに分け、4つのゾーンに再編する
 - ・新しいゾーニングを踏まえた「(仮称) 樹林地管理計画」の策定、「モニタリング計画」の改訂等を行い、利用に応じた植生管理、施設整備・管理、運営等を進める
 - ・那須高原ビジターセンターは、那須甲子地域の拠点施設としての役割を強化し、地域の各種施設との連携を深め、FCと地域をつなぐ役割も担う

